

マザーハウス

たより

**あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。
あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。**



絵：光りんさん

2024

8

月号

- | | |
|---------------|---------------|
| 2 理事長挨拶 | 12 健康相談窓口 |
| 4 塀の中のたより | 14 福音たより |
| 9 出所後 | 22 HAPPY DAYS |
| 10 ささきみつおコーナー | 23 お知らせ |

理事長挨拶

酷暑が続く中、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、マザーハウスの主な活動は、フランシスコなどもあります。主に刑務所出所後の衣食住の支援、機関紙「たより」の発行及び発送、MLP（文通）の3つを柱としています。もちろん、その大本になる方針は、「受刑者の更生による平和な社会の実現」ということになります。

刑務所出所後の衣食住の支援、機関紙「たより」の発行及び発送、これら2つは非常に重要です。しかし、私はそれ以上に重要なのはMLPであると考えています。出所後の支援は、木で例えるなら、実った実であり、水と肥料、日光があつて、長い年月をかけて実ったものです。しかし、水、肥料、日光、どれがかけても、おいしい実は実らないでしょう。

MLPは、その水や肥料や日光にあたるものです。それなしで、仮に衣食住があつても、うまく社会に順応できず、再犯に及んでしまった例はたくさんあります。「たより」も、どんなに素晴らしい内容でも不特定多数の人に対するものであり、多かれ少なかれ一方通行になってしまいます。個々に密のコミュニケーションをとるのは困難です。その点MLPは、地味でインパクトは弱いかもしれないので

ですが、それが可能であり最も重要な支援と考えています。繰り返しになりますが、マザーハウスの目指すところは、受刑者さんの更生であり、それには社会復帰が重要であり、そこから再犯防止が生じます。私がMLPを最も重要と位置付けるのは、受刑者さん各々に犯罪に走った原因があり、心の傷があり、きっかけとなる人や出来事があるからです。たとえ同じような原因であっても犯行であっても、同じ方法で更生につながるとは限りません。受刑者さんは、個人的なことを相談でき、信頼していただき、ボランティアさんは、一人一人に寄添ってそれぞれに合った手紙でコミュニケーションしていただくことが可能なのが、MLPです。焦らず、出所までに心を社会に順応できるように、受刑者さん、ボランティアさんとともに歩んでくださればと思います。

ところで、そんなMLPについて、ここまで重要なものにもかかわらず、ルールや制度、やり方などの説明は別として、その目的、目指すところなど十分説明がされていないと感じているという指摘を複数のボランティアさんから受けました。これは同様のことを受刑者さんも感じているのではと思います。以下共有させていただきます。

ここ一年強、私が繰り返してお伝えしているのは、マザーハウスは受刑者さんの更生をお手伝いするための団体ということ。そこからブレることはありません。受刑者支援というと、あまりにも多様性に富んでしまうので、はっ

きりとそうさせていただきました。これは、MLPも例外なくそこに入ります。

そしてマザーハウスの考える更生は、心を犯罪に向かないようにする。心の中心を愛に変えるということです。マザーハウスの考える愛は、「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。」(コリントの信徒への手紙一→13章04〜07節)というものです。自分のための出世欲、承認欲求、独占欲、支配欲、弱肉強食などは無縁です。私は心の中心がそれから、愛に変わった人を何人か知っています。彼らは口をそろえて言います。「かつては加害の対象に見えた人や窃盗の対象となったものを見ても、今は、できません。なぜなら、加害の対象となる人が悲しむのはもちろん、その人を大切にし、愛している多くの人が見えてしまう、その人は、その人だけではないという思いが強くなりました。とても被害を加えることはできません。」

愛を受け入れると、人を愛するのはもちろん、自分とは無関係に見える多くの人の愛も感じ取ることが出来ます。これが、マザーハウスの考える再犯防止です。もちろん受刑者さんだけではなく、すべての人がそうなっていたことが理想です。

MLPの目指すところは、以上のようなことです。もちろん毎回、こうあるべきという話をしてくださいという訳ではありません。雑談のような内容のこともあるでしょう。それはお互い分かり合うためには必要なことです。ただ大目的から逆行することなく、そこからは離れず、しかし無理せず、受刑者さん、ボランティアさんともに、二人三脚で少しずつ前進していただければと思います。愛に期待してください。

しばらく酷暑が続きますので、ご自愛ください。
神の祝福が皆さん一人一人にありますように。
アーメン

理事長 原田 昇



塀の中のたより

感謝の気持ち

〇刑 蟹牡丹さん

いつも私たち受刑者を大きな愛で支えてくださりありがとうございます。理事長をはじめとするスタッフの皆様やその他事務局、フランチスコ、MLPで働かれているスタッフの皆様、そして私達のために時間を作りボランティアスタッフとして働いてくださる皆様方、本当にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。マザーハウスが大変な時にこうして支えていただけることに心から感謝を申し上げます。言葉だけではなく、私も皆様にお返ししたいと思います。何か私にできることがあれば何でもしたいと思っております。

ここからは、私と同じ被収容者や受刑者の方々に伝えたいことがあります。なぜ支えてもらっていることに感謝をしないのですか？一回でも、マザーハウスに対してお礼の手紙を書いたことがありますか？大変な時だけ頼るのですか？年金を貰っている方々、給付金を貰った方々、一度でも年会費の支払いをしたことがありますか？

受刑者からの手紙

受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙を紹介します。



報奨金で生活している方であっても、月1枚ずつでも余分に買って（年金や給付、差入れのある人と同じように）分納したことはありませんか？恐らくないと思います。厳しいことを言わせてもらいますが、それでは犯罪者や嘘つき、入所前と変わってないと思います。なぜ年会費の支払いや分納をしないのですか？中で本や日用品、類別の菓子はい弁で頼めるのに、マザーハウスに支払うお金は一切ないということですか？もう少し良く考えてください。夏の終わりから秋頃にかけて給付金もあるので、良く考えて行動で示してください。

たよりも書籍も人件費も送料も、何一つタダではありません。そして、全ての物事が当たり前ではないのです。私は入会してから長いですが、ずっと年会費の支払いや古本募金、寄付、アンケートへの協力や、感謝の手紙を送り続けています。皆さん、愛には愛で、気持ちには気持ちで応え、お返し出来る限りのことをやっていきましょう。

はじめての調査

アイドル好きのキム兄さん

初めて投稿します。私事ですが、6月中旬に作業事故を起こしてケガをしてしまい調査になりました。私は自分ではとても慎重なタイプだと思っていたので、まさか自分がケガをするとは思いませんでした。将棋の藤井君も負けるんだから人間何が起るかわからないものです。今回の事で、担当や副担をはじめ、同僚にも大変迷惑をかけてしまいました。特に同じ班の人たちには今後色々制限がかかる中で作業のやり辛さ等を考えると本当に申し訳なく思っています。ケガをしてから3時間後くらいによくやく外部の病院で診察をしてもらい、8針縫いました。縫っている最中、引率していた若い職員が治療しているのを見て失神して後ろにひっくり返ってしまい、治療が終わってもしばらくベッドに横たわる職員の回復待ちという謎の時間を過ごしました。

帰官し夕方、現場検証のために副担が連行に来ました。その際、「俺も担当も現場に戻ってくれて言ってるから」と言ってくれたので少し安心しました。しかし、工場に行き、30人位に囲まれ交わされる会話から、「絶対この統括2人は仲悪いんだろうな」と分かる程ギスギスした状況で現場検証した時、「ここで誰か刺されたん

ですか？」と思うくらい床が血だらけだったのを見て、事故の大きさを知り、工場に戻れる望みは捨てました。調査4日目、処遇棟に副担が来てくれて。「俺は嘘をつけないから言うけど、工場に戻すことができなかった、悪い」とわざわざ伝えてくれました。そして、励ましの言葉をもらい、最後に「今までありがとう」と握手を交わしました。このように刑務官という型に嵌らず人として寄り添ってくれる職員は、真摯な態度で務めようという気にさせてくれます。

人数が少なく大変だった時期と一緒に乗り越えてきた先輩の出所を見送ることができなかったり、同じくアイドル好き兄貴やイケメン後輩に寂しい思いをさせてしまいかもしれないけど、いつか酒の肴に笑えることを願っています。

15日間の調査を終え「戒告」ということで即日新しい工場へ配役になりました。新しい工場は洋裁の工場でミシンを使つての作業となります。工場の雰囲気も良く、皆良い人なので安心しました。アイドルの衣装を作れるくらいミシンを極めようと思います！

前工場は今年の運動会3連覇がかかっているのですが、まずはそれを阻止することが目先の目標かな？(笑)

視覚障害者となって

リンリンさん

私は32年前に強盗殺人事件を起こし1審死刑判決、2審で無期懲役に減刑され生きたくもないのに生きなければならなくなって、死んだ方が楽だったと今でも無期になったことを不満に思うことがある。そんな私に、どこかにいて私を見張っている神様が生きて罪を償うだけでは足りないとも思ったのか、今から19年前試験を与えられ、「ぶどう膜炎」という目の血管が詰まって炎症を起し将来的には失明するという恐ろしい目の病気を患った。進行がとても遅い病気らしく、その頃は眼鏡をかけて0.4位はあって生活にも作業にも何の支障もなく、美容師として受刑者のカットをするのを生き甲斐とし、洗濯工場でミシンを踏んでいた。目は見えるから何も深刻に考えていなかった。あーあ、神様は私を死ぬ様な病気にはしてくれないんだと、生きることが苦しくてたまらなかった。

しかし、年々、目の見えが悪くなり定期的に行く外の眼科でも視力がどんどん落ちていくのがわかり、それでも何とか生活できていたが、今から7年前、検眼したところ左目が全く見えなくなっていた。視野欠損で真ん中がちように見えないので。まわりは見えるし、光もあるので失明とは言わないそうだ。右目の視力も0.04に

なっていて、眼鏡を作っても度が出ない。そして、生き甲斐だった美容師の作業も危ないからといって辞めさせられてしまった。右目が見えるからできます、やらせてください！と何度も訴えたが、刑務所という所は受刑者にケガをさせることを1番恐れている所なのだ。私は生き甲斐をなくして、それでもまだ見える右目で左目を補い、洗濯工場に働いていたが、今から3年前とうとう右目も0.01になっってしまった、眼鏡をかけても0.01で白内障も発症し、昨年違う眼科に行ったら加齢黄斑変性症という病気も加わり、目の神経がガタガタで白内障の手術をしても見える様にはならないと言われ、お医者さんから視覚障害者と認定されてしまった。そして、身体障害者手帳を申請したらなんと1級という1番悪い級を取得してしまった。

それでも私は生産工場の衛生係をしている。29年目の受刑生活で所内のことは殆ど理解しているので、どこに段差があるのかも分かるし、ケガをしない様に職員さんたちも気を遣ってくれ、自分も慎重に行動している。階段も手すりを持って1番最後にゆっくり昇り降りする。速く歩けなくなった。作業に支障はないし衛生係の仕事が早く終わると製品作りを手伝って私に任せてくれる作業もある。近くは老眼鏡があるのでまあ見えるが、1メートル先が見えにくいいため、人の顔も見えない。衛生係の仕事として工場に入ってきた新入さんに説明する時も顔が見えないから私が嫌！となることがあるが、どうせならこんな中途半端

じゃなくて完全に失明させてくれと思う時もある。でも、神様はそれはしないと知っている。とりあえず今は苦しめるだけ苦しめているのだ。失明はさせない。何故なら、いつか出所したら社会貢献をして償っていかうと考えているのだが、失明させたら償いも出来なくなる。そんなことはさせないと私は神様を信じている。今、いくらでも苦しめて下さって結構です。それも償いの1つだと思っから。視覚障害者になってから、それまでも我慢耐はしていたけど、一層耐えられる様になったし、こだわりが捨てられた。美容師やりたーい！でも出来ないじゃん。まあ、仕方ないかって。

悪い事ばかりじゃない。私の視覚障害を知っている同囚が優しくしてくれるし、身体障害者手帳1級なので社会に戻ったら色々なサービスが受けられる。バスやタクシーの割引、免税医療費1割負担など調べれば色々あるだろう。多分、下を向いてしかもう歩けないので、介助者が必要だと思う。今は周りに人がいて助けてくれる。いつか出所できたら1人で生きていかなければならない。東京に帰るので人が大勢いる中で1人で行動するのは危険だろう。福祉サービス等を利用して出来る仕事をして、今考えている社会貢献をしたい。それが何かはまた書きます。皆さんも健康には気をつけて受刑生活を乗り切ってください。



受刑者からの手紙



受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙 - つづき -

私が思うこと

〇刑 コハゾーさん

たより6月号のプリズムさんの意見に私も賛同します。ドブねずみさんの死刑制度廃止についての投稿に私も違和感・不快感を感じました。一生消えない心の傷ならば、治せない感情ならば、その感情は無視し、第一に考慮すべきは加害者の生命なのでしょうか？被害者遺族の心情を考えた発言とは到底思えません。私も、色々と考察した結果、善しとは思いますが、死刑制度は致し方ないのではないかと思います。被害者遺族も好き好きな人の命を奪われた人の心情を考えると安易な発言は出来ないはず。私の死刑制度への考えとしては、執行猶予期間を3年から5年程度設け、その間厳しい審査を行い、改善の余地が散見されなければ即執行すればいいのではないかと思えます。あくまで執行猶予であり、執行停止ではなく、その人が亡くなるまで続くというものです。それならば被害者遺族の方々も少なからず救われるのではないのでしょうか。

ドブねずみさんの投稿には感心・考えさせられることが多々あります。刑務所の理不尽なことを

正そうなんて、なかなか出来ることではありません。私にも、刑務所への不満や改善して欲しいことは少なからずあります。しかし、ペットになっている訳ではありません。刑務所に意見すること善しと思つてないだけです。自分の置かれた立場から、今すべきこと、すべきでないことのけじめを心得、自重しているだけです。理不尽が横行する刑務所に来たのは私の身勝手な行いが招いた結果です。私が自ら選択して理不尽な所に来たんです。それでいて不平不満を口にするのは、筋違いだと思つているだけです。それに、刑務所に意見している姿を被害者や社会の方々、自分の家族には見せられません。私は被害者や自分の家族の心情を無視し、不愉快な思いをさせてまですることではないと思つています。決して、刑務所や視察委員会に意見・提案することが悪いと言つている訳ではございません。

ドブねずみさんの投稿に「私達が過ごしやすい環境を作るために必ず必要な事」とありましたが、刑務所が過ごしやすい環境で良いのでしょうか？ 私には、ドブねずみさんの意見は自分本位で相手の気持ちを考えてしたものとはなかなか思えません。せめて「過ごしやすい環境」ではなく「更生しやすい環境」と考えるべきではないでしょうか。あと、ドブねずみさんは刑務所が変わり職員さん



受刑者からの手紙

受刑者からマザーハウスに寄せられた手紙 - つづき -



との信頼関係が築けないと更生出来ないのでしょうか？確かに更生は一人では難しいと思います。ですが、結局更生出来るかどうかは己の考え・心・意思次第じゃないでしょうか。刑務所側にも問題はあると思います。受刑者への態度や指導の仕方、処遇等々受刑者への思いやりや愛がもう少しあってもいいんじゃないかと思つています。そうすれば、心動かされ変わろうとする人は間違いない増えるでしょう。そのためには、私達受刑者が心改める必要があるのではないのでしょうか。受刑者も感情・人情ある人間です。私達が変われば刑務所も変わってくれると思つています。社会も犯罪者に対し寛容ではないのが現状です。でも、それも私達受刑者が悪いのであって、社会が悪いのではありません。社会に受け入れて欲しいければ、やはり私達が変わるしかないんです。私たちは何かと出来ない理由を他人や環境のせいにしがちです。まずは、その考え方を変えなければ更生は難しいのではないのでしょうか。自分の意見を訴える前に今一度、道理・筋道をたどり、私議に偏り、人の心情を無視した意見は慎まなければいけません。更生の為に一番に行わなければいけないのは、相手の立場になって考えることではないのでしょうか。自分を重んじ自己主張することも時には大切ですが、自愛主義ではいけません。他人を思いやることこそが更生への第一歩だと私は思つています。

出所後

出所してからの生活

H・Kさん

私が出所してから、今日までの生活状況が、出所を間近にした人に何かの参考になるなら、私の考え方や、出所後の事を述べたいと思います。

私の場合は、更生保護会に身元引受人になってもらい出所したのですが、仕事も住むところも決まらないまま、保護会にお世話になったのです。保護会は、基本的に三ヶ月の間に仕事、住むところを探さなければならなかったため、次の日からハローワークに通いながら、住むところを探しました。私は73歳で出所したので、仕事は限られ、なかなか見つけれません。住むところを探している時に、シルバー人材センターが働く人を探しているのを知って、入会の手続きをして、仕事を世話してもらいました。住むところは、運よく、市営アパートが当たったので、一安心。

私は、令和3年6月8日に仮釈放で出所しました。9月26日からシルバー人材センターで世話してもらった保護会の近くにある公園の掃除に保護会から通いました。アパートから4.5kmありますが、今も公園の仕事は続けています。人それぞれですが、家族の元に帰られる人は、大変恵まれていると思います。満期出所の人は、出所の日から、全部自分でしなければなりません。仮釈放で、保護会にお世話になれる人は、運が良いと思います。何と言っても食事の心配はありません。保護会に居る間に仕事と住むところを探せますから、要は覚悟を決めることです。

収入にあった生活をする、毎日を楽しく過ごせるようにする。収入の中から、少しでもよいから貯金をして、一ヶ月分の収入分くらい貯める。これが出来たら、自分自身に余裕ができます。健康で出所すれば、あとは何とかかります。出所の近い人は、運動時間を有効に使うて体を動かしてください。出所したら体が資本です。やる気と覚悟を決めたら何とかかります。一日も早い出所を待っています。

わたせみお「ノー」

粘り強さに勝るものはない

1 ノーベル賞温泉

2年ほど前に仕事で山梨県の韮崎市を訪問した折に、地元で有名な日帰り温泉施設、「ノーベル賞温泉」に立ち寄った。正式な名称は、「武田乃郷白山温泉」。甲斐の武田信玄が築城した「白山城」の麓に湧出した温泉である。天然かけ流しで、露天風呂からは八ヶ岳、茅ヶ岳がまるで一幅の美しい絵画のように眺望できる。

2015年にノーベル医学・生理学賞を受賞した大村智博士が、生まれ育った韮崎市への恩返しとして2005年に設立した温泉場であり、敷地内には、同じく大村氏が設立した美術館と蕎麦屋が併設されている。

2 決してあきらめない

最近、大村氏の関係者から白山温泉掘削についてのエピソードを聞いた。大村氏は私費を投じて温泉を掘ることを思いついたが、地元の各地にはすでにいくつかの温泉があった。美術品蒐集家でもあった大村氏は、大自然の美しさをそのまま鑑賞できる温泉を造りたいと願って場所を選び、蒐集した美術品はすべて韮崎市に寄贈した。

ところが、温泉の掘削を進めるに従い、次々に固い岩盤にぶつかって工事は難航を極めた。多くの関係者は途中であきらめて、別の場所を掘るように何度も助言した。しかし、一度取り組んだからには完成するまであきらめずにやり抜いてきた大村氏は、「温泉は必ず出る。費用が問題なのではない。やり抜くかどうかは問題なのだ」と言い切って断固として掘削を続けた。そしてついに温泉の水脈を掘り当てたのである。

3 粘り強い祈り

神を信じる者はどんなことでも神に祈り求めることができる。(ヨハネ15:7) 人間の常識では実現不可能なことでも神に願い求めることができるのである。(マルコ11:23) しかし、時には、願ったことがかなえられるまで、失望せずに粘り強く祈る必要がある。(ルカ11:5〜13)「粘り強く」とは「忍耐強く」という意味である。

願いが大きければ大きいほど、その実現を阻む障害(問題)も大きい。願い求める過程で様々な試練に遭遇し、神に依存せざるを得なくなる。その結果、その人の信仰が強化される。言い換えれば、内なる人(神の子)と内なる神(聖霊)との結びつきが強化されていく。そこから、どんな苦難にもくじけずに耐え抜いていく忍耐力(練られた品性)が生み出される。こうして内なる人(神の子)がキリストのように完全な人として成長していくのである。(ヤコブ1:2〜4) 結果として、内なる神(聖霊)の力によってその人の希望が実現していく。

「神のみ旨を行って約束のものを受けるため、あなた

がたに必要なのは、忍耐である」
(ヘブル10:36)

「この世に、粘り強さに勝るものはない。才能?才能があっても成功できなかった例は枚挙にいとまがない。

天才?報われない天才という言葉は、すでに決まり文句になっている。

教養?世の中は教養ある浮浪者であふれている。

粘り強さと断固たる信念だけが、無限の力を持つのだ」
(カルビン・クーリッジ:第30代米国大統領)

「ある町に、神を恐れず、人を人とも思わぬ裁判官がいた。ひとりのやもめがいて、彼のもとにたびたびきて、『どうぞ、わたしを訴える者をさばいて、わたしを守ってください』と願いつづけた。彼は、心のうちで考えた、『彼女のためになる裁判をしてやろう。そうしたら、絶えずやってきてわたしを悩ますことなくなるであろう』」

(ルカ18:1〜8)

ささき みつお (弁護士)

看護師 中谷先生による 健康相談窓口

皆さんこんにちは。猛暑の日々が続きますね。皆さんいかがお過ごしでしょうか？
今年の4月から大学内の仕事が増え、毎日目まぐるしくしていました。授業をこなし、ゼミ生と大学院生の指導をしながら、病院へも出向き、看護管理者の相談・看護師に対してはケア・研究指導をしていました。看護スタッフだけでなく、理学療法士や作業療法士の方々に対しても喀痰吸引研修と何でも指導屋をしています。現場も知りつつ、研究者でもあり続けることが出来たらいいなと思いながら仕事をしています。

ちょうど1か月前ほどになりますが、「ナースの卯月に視えるもの」という単行本を読みました。涙が出て、頁を進められないこともありました。看護師の仕事ってこんなに素敵な仕事だったかと、人の生命に関わる仕事って楽しいと初心に戻ることができました。皆さんも良かったら一度お読みください。

7月下旬から夏休みに入りました。今年の夏は四国を旅してきます。非日常を感じながら、2カ月間は研究論文執筆や研究費申請書書きに明け暮れる日々を送ります。

来年は EXPO2025 大阪・関西万博に共同出展させていただけることになりました。私の研究室で作成している研究物になりますが、今まだ製作・実験中です。またご報告させていただきますね。

ストレスでなぜ胃が痛み、お腹を下すのかについて今回調べたことを説明していきます。入学・就職試験などの前に胃がキリキリと痛む、下痢になるという経験はありませんか？心理的なストレスによって胃腸の調子が悪くなることはよく知られています。では、なぜでしょうか

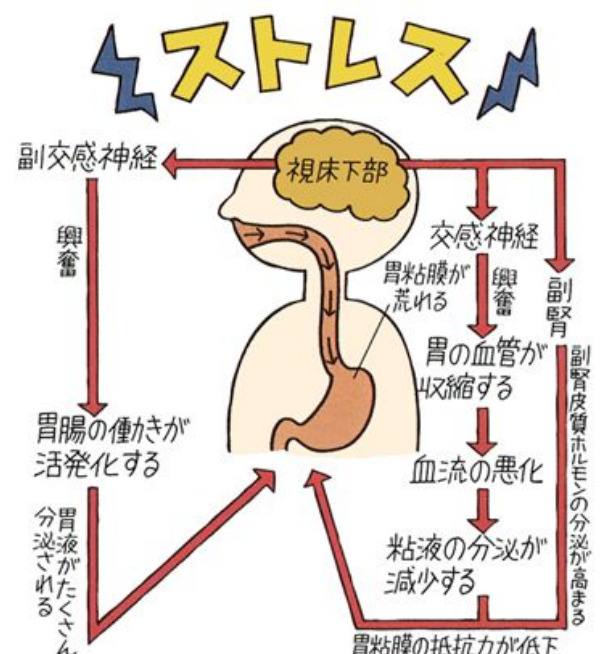
「ストレス」とは、本来、「物体に力が加わることで生じるゆがみ」ということを意味しています。ストレス研究の第一人者であるハリス・セリアは、ラットに「低温・高温環境に置く」身体的ストレス、あるいは「精神的恐怖を与える」心理的ストレスを与える実験を行い、ストレス下ではラットの胃腸が荒れたり、副腎が大きくなったりすることを見出しました。その後、ストレスで生じる身体の反応（ストレス反応）には、自律神経という働きが重要なことが明らかにされました。

自律神経の働きは、神経細胞が分泌するアセチルコリンなどの神経伝達物質と、脳下垂体、副甲状腺、膵臓、胃などの内分泌腺から分泌されるホルモンによって調節されています。自律神経は交感神経と副交感神経からなり、相反する作用を持ちます。交感神経は、車に例えるとアクセルに該当します。盛んに働いている時は血管を収縮させ、心拍数を高め、血圧を上昇させます。胃や腸の機能は交感神経によって弱まり、副交感神経によって強まるのですが、両神経が絶妙なバランスを保つことで正常な消化機能が維持されています。

ストレスに見舞われ絶妙なバランスが崩れやすくなり、交感神経が異常に働き、副交感神経の働きが鈍くなります。そのため、胃は粘膜の血管が縮み血液の流れが悪くなり、粘膜の働きも悪くなります。

脳に真下にある脳下垂体から、副腎皮質ホルモン、腎臓の頭側にある副腎からコルチゾールというホルモンが出るのですが、ストレスによって胃酸がたくさん出てしまい、胃粘膜を覆う粘液が少なくなるので、胃の壁を胃酸が刺激してしまいます。そのため、胃の不快感、胃が痛い、吐き気などが起こりやすくなります。

ストレス状態の腸は、交感神経が活性化することによりぜん動運動（消化管にみられる運動の1つで、消化管の一部が輪状筋を収縮し、収縮輪が次第に口側から肛門側に移動することにより腸内容を肛門に向かって送る運動）が抑制します。また、脳下垂体から分泌される副腎皮質ホルモンが十二指腸の運動を抑制し、腸の動きを活性化させます。このような腸の機能異常によって腹部の不快感、腹痛、下痢、便秘が起きやすくなります。



ストレスを受けて胃が荒れる仕組み - 検索 画像 (bing.com)

福音たより

■カトリック麹町教会（聖イグナチオ教会）より許可を頂き、ホームページのミサ説教を原文ママ転載させて頂きます。

高祖敏明 神父

8月15日（木） 聖母の被昇天

この平和旬間の間に日本のマスコミもいろいろと戦争や平和のテーマで番組を作っています。皆様ご覧になっているでしょうか。今、NHKの朝ドラ「虎に翼」の中でも、広島と長崎に原爆を落としたことが国際法に違反するかどうかということの裁判の、今その場面に入っているところですね。そして8月10日、テレビ東京の「新・美の巨人たち」という番組を見ていましたら、広島ของ 幟町の世界平和記念聖堂が紹介されていました。広島出身の俳優の西田尚美さんがレポーターになっていましたけれども、説明によると、広島出身なのにこの世界平和記念聖堂に入ったことがなかったということを紹介していました。この教会は1923年と言いますから、大正12年に幟町天守公教会ということで誕生しています。しかし、1945年8月6日の原子爆弾によって崩壊し、フーゴー・ラサル神父さんたち3人の神父さんは、その教会の下敷きになって非常に大きな怪我をさ

れました。それを当時郊外の長束にいたアルペ神父さんの指揮の下、若い新学生たちが救出に向かったという、あの話が残っています。戦争が終わった8月からふた月ぐらいたった頃でしょうか。トタンのバラックの聖堂が作られて、そこでその年のクリスマスのお祝いもしています。そして、この地にラサル神父さんが中心になって、世界大戦で亡くなった人々の慰霊と世界平和を願って建てられたのが世界平和記念聖堂です。1954年8月6日の献堂式です。

実はこの幟町の平和記念聖堂は私の出身教会でもあります。道路を挟んだ目の前に幟町小学校があります。私は6年間そこに通いました。と言いつても、小学校時代はカトリックとは縁がありませんで、12時にお告げの鐘が鳴ると、お、給食の時間が近づいたというようなイメージで通っていたような状況でした。そして、小学校を卒業してからイエズス会創立の広島学院に入ったわけですが、そこでイエズス会の神父さん方を通してカトリックと出会いました。1960年、中学校3年生の時に受洗していますので、この平和記念聖堂ができてからのことです。それ以来、幟町の教会に通うことになりましたけれども、大進学に伴って東京に出て、東京が生活の本拠地になりましたので、この平和記念聖堂のことを体験的には知っていてもあまり詳しくは知らなかった。詳しくそ

れを知るようになったのはここ数年でありまして、その意味でこのテレビ東京の世界平和記念聖堂についての紹介は、非常に私にとっても興味深い番組でした。

その中でいくつかわかしたことだけちょっとご紹介しますけれども、戦争が終わって間もなく、ラサール神父さんはローマに出かけています。当時の教皇ピオ12世に謁見を得まして、原爆と世界大戦で亡くなった人々を慰霊するため、また世界の平和を祈るための聖堂建設についての認可を得る、ということは支援を仰ぐっていうことですね。そして実際にヨーロッパとアメリカを回りながら、建設資金を集めるために本当に動き回っていました。当時のお金で6000万円を集めたと言われています。同時に日本に帰って1948年、設計のコンペを実施しました。何を審査の基準にしたかという点、モダンであること、日本的であること、宗教的であること、記念碑的であること、この4つが基準だったそうです。蓋を開けてみると、なんと1309名から、チームで作ったでしょうけれども、177点の応募作があったそうです。それを審査にずっとかけていったんですが、2位になったのが、かの丹下健三さんです。そして、1位は入賞なしでした。なぜ入賞はなかったか。ラサール神父さんが書いているものを見ると、どの作品も日本的という感じがあまりしない。そして特に宗教性が感じられない

というのが大きな理由だったようです。設計コンペがうまくいかないと教会建設が進まない。それでどうしたか。イエズス会側もいろいろと考えていたんでしょう。審査員の一人であった村野藤吾さんという建築家、この方も当時有名な建築家で、この方は審査側にいたんですね。この人に設計を依頼する。しかし村野さんは当然、自分は審査員だったのに、自分が設計に加わるということは、自分がやるために他の人をみんな落としたのかというふうに疑われるじゃないかというのを心配したでしょうし、自分自身が入っていくというのはおかしいでしょうということで、本当に辞退を重ねたそうですけれども、最終的には折れて、じゃあやってみますということを受託したそうです。

基本コンセプトとしたのが、古来の伝統的な教会建築、この伝統を重んじるということ、モダンで日本的なものとを融合する。そして、神は細部に宿るということはよく言われますけれども、美は細部に宿るといって、これも基本的なコンセプトにして、いろんなアイデアを持っていったけれども、そのたびにラサール神父さんをはじめとするイエズス会側にダメ、ダメと断られて、これで断られたら私はもうやらないという決意のもとに持っていくと、お、これはいいじゃないですか、という形で決まったのが今の教会の設計のもとになったものだそうです。広島でご覧

になった方も多いかと思えますけれども、聖堂の高さは3階ですからこの教会よりもちよつと低いかもしれないけど、ほぼ同じくらいの高さですね。内陣は伝統的な三廊形式です。三廊形式というのは、古いイグナチオ教会がちょうど船をイメージして、古くして、真ん中に胴体があつて、柱の外に側廊がついているという、この3つの構造で、基本的に船の形で教会を作るといふ、こういうイメージですね。幟町のこの平和記念聖堂もそういうものをとっています。そして、そういうこの大きな聖堂の横に45メートルの塔がありまして、そこに鐘が吊るされている。

そのこの日本的なものがどうなっているかということろをちよつとご紹介したいと思えますけれども、例えば、教会の中に電灯が吊るされている。その電灯の笠が蓮の花の形をしているそうです。そして、ステンドグラスが中にあるんですが、それを建物の外から見ると、ステンドグラスのこの見える光をとっている窓が梅の花の形であったり、五弁の花の形であったり。私たちがよく松の木の絵を描くときにこの3つの山を作りますね。そんな風な窓を使つてあるとか、そしてひとつ極めつけは、主聖堂の上に本来なら十字架を立てるところなんですが、そこに鳳凰フェニックスを飾っている。ご存じのようにエジプトの神話に出てくる霊なる鳥でございまして、50年60年たつたら

自分の体を燃やして、そこから若い命が出てくるということでも不死鳥と言われています。絶えず生き返つていくというこのフェニックスを置いている。45メートルの塔、これは私も何度か登りました。あの時代、周囲に高い塔もなかったものですから、非常に眺望がいいんですよ。広島市内全体を見渡せるということ、そういう塔も登つた記憶があります。

1950年、建設工事が始まります。ところが日本は朝鮮戦争の特需で資材が高騰していく。そのため6000万円では足りない。工事が中断して再度募金に走るというようなことが繰り返されています。そしてラサル神父さんをはじめ多くの神父さんたちがいろいろと努力している姿を見て、村野さんは、本来ならいただくべき報酬もありません。全部お返しします、という形で返したそうです。そして、お金がかからない工法ということで、現場で様々なものを自分たちで作つてこの教会を仕上げる、安くあげるといふこと。例えば広島島の川の砂を取ってきて、それでレンガを作つたりしているんですね。そういうようなこともちよつと紹介されてきました。そして同時に番組が強調してましたのは、ラサル神父さんは世界を回つた影響もあるんですよ。世界から平和への願いというのがこの教会に届けられている。本祭壇はベルギーから届いている。聖堂正

面のキリスト像は再臨のキリストの絵なんですけれども、このモザイク画はドイツのベルリンから、洗礼盤はドイツのアーヘンから、説教台はミュンヘンから、パイプオルガンはケルンから。ラサールさんがドイツ人であったということもあって、また大戦後のドイツはキリスト教を基本に据えた新しい国づくりを進めていましたし、日本と同じ敗戦国として平和への願いが強かったから、ドイツからのこういうものが多かったのかな、という気がしております。

そして、番組では深く紹介していませんでしたけれども、45メートルの塔には平和の鐘が4つ付けられています。私が給食の合図って聞いたのは、実は平和の願いの鐘だったんですね。そしてもう一つ私たちが身近に感じるところは、この4つの鐘は私たちの聖イグナチオ教会の鐘と兄弟なんです。製造元はブメル・フェライン鉄工所というドイツのボッフムにある鉄工所で、第二次大戦中、戦車や銃器の兵器を製造していました。この会社の重役に聖イグナチオ教会の当時の主任司祭ホイヴェルス神父様のお兄さんが勤めていた。そして私たちのこの古い教会が1949年4月17日に献堂しましたけれども、その時にかつての兵器を潰して製作した3つの鐘、聖イグナチオ、上智の座、聖テレジアと名前が付けられたこの3つの鐘がイグナチオに贈られて、先ほど10時の10分前に

も鳴っていましたよね。この同じ会社が広島の平和記念聖堂のための4つの鐘を作りました。1952年、イグナチオ教会ができてから3年後のことですけども、10月、ボッフム市のホールでこの4つの鐘の贈呈式があつて、11時55分から12時までの5分間、この4つの鐘がボッフムに鳴り響いたそうです。それをずっと船で日本に運んできて、1954年8月6日のちょうど原爆の日の世界平和記念聖堂の献堂式を行い、この4つの鐘も鳴りました。この4つの鐘にも名前とラテン語の文章が付けられています。

1番目は平和の元后、つまりマリア様に捧げられたものですね。そこには「戦争を動かす鉄は、今や諸国に平和を呼びかける」というラテン語の文章が刻まれています。2つ目はドイツの使徒、聖ペトロ・カニジオ。宗教改革の時にイエズス会に入り、ドイツの多くのところでプロテスタントからカトリックに帰るような仕事をした方で有名ですね。このペトロ・カニジオの鐘には、「戦争で破壊されたドイツは平和のために日本国民と結ばれる」というラテン語が書いてあります。3つ目の鐘は日本の使徒、聖フランシスコ・ザビエルに捧げる。「西洋から来て東洋にキリストの福音を伝える」という文章が刻まれています。4つ目、日本26聖人の一人、聖パウロ三木に捧げる。ご存じのように聖パウロ三木は十字架

の礎に、長崎の西坂で礎になっている。その上でキリストの教えに従い、十字架につけた太閤様をも赦しますという言葉を残して殉教していった方ですけれども、ラテン語の文章は「殉教者の血はキリスト者の種子、また平和の種子である」という文章が書かれています。それぞれドイツから広島に、広島だけではなくて全世界に向けられた平和のメッセージ、平和の祈りがそういうところに込められています。

世界平和記念聖堂はこうしたメッセージと、世界から届けられた祈りに支えられております。今日の、平和の元后であるマリア様の祝日のお祝いにあたって、そういうこの教会と兄弟の鐘を持っている広島のことを思い起こしながら一緒に祈りを捧げたいと思います。なお、世界平和記念聖堂の聖堂に入るところに銅でできた扉があつて、これはデュッセルドルフから送られているんですが、そこにも文章が刻まれています。「平和への門は隣人愛なり」。この言葉と、先ほどの4つのラテン語、4つの鐘に刻まれた願いと祈りを思い起こしながら、神のもとにおられる平和の元后、被昇天の聖母マリア様のとりなしを願って、私達も平和を願い求める祈りを捧げたいと思います。

サトルニノ・オチヨア神父

8月11日(日) 年間第19主日

ただいま耳にした福音、この日曜日の典礼の福音で「わたしはパンである」ということは特別に意味があります。ご存知のように北半球では今、小麦の収穫の日です。それで今でもスペイン、フランス、イタリア、特にウクライナの方では、そこへ行くと本当に収穫前の畑は黄金の海のようにです。少し風が通ると黄金の波さえもあります。それを見て、私たちは神様に恵まれていると昔から人々は言います。これがありますので、やはり今年は大丈夫です。食べられる、生きることができます。そのパンはただ小麦のパン、フランスパン、バゲットだけじゃなくて、命です。

聖書の第1ページでは、アダムが罪を犯した時に神は、汗を流しながらパンを食べるであろうとおっしゃいました。このパンは本当にあなたの努力と仕事と苦勞しなければ得られない。このパンというのは、ただ特別な食べ物ではない。パンは命です。日本語のお米みたいなものです。特別です。だからいろんな言葉で、英語でもフランス語でも、私は糧を作るということです。命、生き方ですね。これをサラリーがあつて仕事によって給料がきますので、それはパンを作ると言われるんですね。私のパンですね。私の日用のパン、

これは作っている命です。これがあれば私たちは食べられる。ちなみに日本語では主の祈りがあるでしょう。それで、私たちは日用の糧と言っんです。本当にパンです。けれども、日本語で糧と言ったら、もっと生きるためにどうしても必要なことですね。

このパンについてイエス・キリストは、「わたしは命のパンである」とおっしゃいました。これをわかるために、今、私の胸に浮かんでくるのは37年前のことです。

私の教え子は慶応大学に入ったばかりで、すごく経済的に恵まれている家ですので、彼はですね、夏休みどうしましょうかということ、何気なく彼は「カルカッタへ行きます。それでマザー・テレサのそばで1ヶ月ぐらい働きたい」と言っんです。それで行っっちゃった。帰る時にカルカッタの電車の駅で彼が待っていると、電車が遅れたみたい。お腹が空いたので、店へ行って立派なお弁当を買って、それで食べようとしたんですね。駅のベンチに座ってそれを開けると、なんか子どもたちが5〜6人。あの弁当箱を見て彼のそばに来ていたんです。それで彼が慌てて、どうしようもなくなっってね。あの弁当をベンチに置いて、それで去った。子どもたちは言うまでもなく、それを食べることになっったようですね。だけど、彼は後で帰ってきて「先生、これは果たして良かったでしょうか」。それで私は、「い

え、良いことしたんですけれども、それほど良くない」「では、どうしたら。もっとお金もあげるとか」「いいえ、あの子どもたちと一緒に食べたかどうか」。

それで今日はこのパン。私たちはパンのことを見て、考えて、感謝しながら、いつも日本語で「いただきます」と言うことは素晴らしい祈りです。私たちはパンを食べる時に、天からいただいているパンですから。それでパンを食べる、これは恵みです。幸せです。素晴らしい。美味しくいただく、それ以上何か良いことがあるんですか。もしかしたらパンを食べるよりもパンを与える。与えることができる。私があなたにも与える。福音でイエス様は弟子たちに、(人々に)パンを与えることによって食べさせてくださいと。見事に与えることは素晴らしいことです。なお、パンを食べることとは幸せ、パンを与えることはもっと幸せ。それ以上考えられる。私の教えはパンを分かち合う。同じパンを食べる。それによって私たちは兄弟になります。同じパンを食べるんですから。また少しあえて考えながら、それ以上あるん



ですか。それ以上、今私たちのやっていることです。イエス・キリストは私たちのパンになる。ミサで本当にあのホステアの形で、私たちはもうパンじゃなくてイエス・キリストの命をいただいて、分かち合っていて、それによって私たちは本当の教会になります。本当の兄弟姉妹になっています。1つの神の民になります。こういうふうを考えて私たちは、特別にこの8月の暑い日曜日に祭壇を囲んで、あのイエス・キリストをいただいています。イエス・キリストは私たちのパン、私たちの命です。

関根悦雄 神父

8月4日(日) 年間第18主日

今日の福音は、先週の5つのパンと2匹の魚を500人に分け与えた翌日のことです。パンの増やしの奇跡はどの福音書にも出てきますね。これは私たちにとっても大事なことです。そしてその翌日に何があったかという、まず多くの人たちはイエスのもとにまた集まろうとしました。それは何のためですか。そこで自分たちがパンをいただいた。その当時も今と同じように、自分の食事ができないで飢えている人がたくさんいたと思われれます。そういう人たちは、イエスのもとに集まれば何とかなるんじゃないか、そうい

う期待を持ってイエスのところに集まった。しかし、イエスが望んでいることはそういうことではない。イエスは「はっきり言っておく。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからだ」。そこでイエスはこう言います。「朽ちる食べ物のためではなく、いつまでもなくなるので、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい」。

永遠の命に至る食べ物。永遠の命というのは何ですか。ヨハネは別のところで、イエスの祈りの中でこう言っています。

「永遠の命とは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです」。

父である神を知り、そしてイエスを知ること、これが永遠の命だ。これも難しいですね。

私たちは毎週、あるいは毎日の人もいるかもしれませんが、ミサに与ってキリストの体をいただきます。これはキリストの命をいただいていると言っているのでしょうか。これは何ですか。腹を満たすためですか。そうじゃないでしょう。小さなイエスの体をいただいても腹は満たされません。これは何のためでしょうか。今日の結論ですが、これは永遠の命を生きるためです。イエスは永遠の命の糧です。今日の福音の後ろの方にそう

いろいろなやり取りがあつて、そこで彼らが「主よ、そのパンをいつもわたしたちにください」と言つと、イエスはこう言います。「わたしが命のパンである」。こう言うんです。私が命のパン。イエスが命のパン。イエスの内にこそ命がある。私たちこれをちゃんと分かっているかどうか。私たちがイエスをいただくというのは、この永遠の命を生きるためなんです。

さあ、皆さん。私たちキリスト教について学んだ時に、確かにキリストの復活とか永遠の命について学んだはずで。永遠の命というのは、私たちが今生きているこの生物的な命が亡くなった後に生きるものですか。そうではない。すでに私たちは永遠の命に生きるように召されている。このことが大事だと思えます。じゃあ、私たちは永遠の命を生きているという自覚はありませんか。イエスは私たちに、この永遠の命を生きるために大事な命令を残しました。それは「互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」。

これが永遠の命に生きること。イエスの命を生きるとは、私たちが互いに愛し合い、互いに生かし合うこと、人と人とが生かし合うことです。自分一人が生きていられないです。私たちは永遠の命を生きているならば、自分の命を自分のためだけでなく、むしろ必要な人のために差し出す。人を生かす。これによって互いに

結ばれて、共にキリストに生きる者になっていくことができる。

私たちが今生きているこの世界、今の世の中では分断が進み、自分さえ良ければ他人のことなど構っていられない、そのような風潮が強くなってきているんじゃないでしょうか。今日この後の共同祈願の意向の中で、「世界から飢餓の苦しみを取り除いてください」とあります。しかし世界中ではなく私たちの周りでも、例えば今、夏休みになると、子どもたちが十分に食べられない。そのような状況が起こっていると言われています。それはなぜですか。本当に人々を支えるための仕組みがうまく機能していないからでしょう。

共に生きる、互いに生かし合う。これが永遠の命を生きることだということを知って、私たちも一人ひとり、私たちの周りにいる生きることが困難な人たち、その人たちを支える。必要なものは、私たちにできるならそれを与える。そういうことが求められているのではないかと思えます。私たち一人ひとり、このイエスを信じる者として、永遠の命を生きる者としてそのような分かち合いができるように、もちろん私たちの間でも与え合う。そしてそれによってつながっていく。これをもっともっと強めていけばいいのではないかと思います。そういうことのために互いに祈り合ひましょう。

HAPPY DAYS

当事者のTさんは毎週日曜日にミサに行き、教会、墓地の草刈などの奉仕をしているうちに、今度は信徒の方の畑の草刈を頼まれて、休みの日に手伝いをして、そこで手作りの野菜をもらい、おすそ分けしてくれます。先日は、教会のサマーキャンプがあり、子供達と一緒に参加をして川に入り、他の子供達とも仲良く遊んでいました。長男と長女が初聖体を授かるために、約5ヶ月間、毎週日曜日、ミサの前に勉強会に参加しないといけないのですが、Tさんは、子供達がさぼらないよう、毎週土曜日に子供達を自宅に泊めて、勉強会に連れて行き、終わるとご褒美にマクドナルドを食べさせてくれました。そのおかげで6月に初聖体を授かることができました。

また、神父さんはじめ、信徒さんも優しく、子供達は奉納の手伝いをするようになりました。子供達が公園やプールに行きたいと言えば、連れて行ってくれたり、子供達が食べたい食べ物屋さんを連れて行ってくれたり、今度は遊園地に連れて行ってくれるとのことでした。

神様に使われていることが幸せだというTさんには尊敬と共に心から感謝をしています。



文通ボランティアさんへ

天涯孤独の多い受刑者さんにとってお手紙が来ることはとても嬉しいことです。ボランティアさんから2ヶ月以上お返事がこない、「失礼なことを書いたかな…嫌われたかな…」などのご心配のお手紙が多く届きます。

ご多忙等でお返事が書けない場合はハガキ1枚出していただけると幸いです。事務局からも出すことは可能です。ご理解とご協力の程どうぞ宜しくお願い致します。

受刑者の皆さんへお知らせ

○ 移送・出所される方は必ずご一報下さい。MLP（文通）に参加している方は文通相手へのお手紙のみ出して頂ければ大丈夫です（差出人欄の住所で確認できるため）。

○ お問い合わせが多い内容（例：文通相手の追加を希望したのにまだ決まっていない等）は、返信にかえてお知らせ欄で回答させて頂くことがあります。毎月ご確認頂くようお願い致します。

○ MLP ペア決め現状：ペアが決まっていない人を優先しておりますが、4か月以上お返事が届いていない受刑者の方は文通相手の追加を承りますので、「文通担当」宛にお手紙お出し下さい（お時間かかる場合があります）。

○ 冊子 NEXT は寄贈終了、サインズは休刊に伴い、たよりへの同封が終了しました。

○ フランシスコ事業部は、会費を全額納付された方のみのご利用となります。フランシスコ事業部を利用しない方は、会費の分納が可能です。なお、マザーハウスに送られた切手やお金は返還できません。あらかじめ資料をよく読み、計画的に送られるよう何卒お願い致します。

○ 会費やフランシスコの費用を切手で納める場合（84円以上の切手のみ使用可）は、1枚につき現金交換手数料10円がかかります。※郵便局の価格改訂に伴い、2023年4月から手数料が1枚5円から10円に変更になりました。

（例）100円切手×5枚の場合：
500円－手数料10円×5枚分＝
受領額450円

○ 下記に当てはまる場合は、事務局までお知らせ頂きたく、宜しくお願い致します。

- ・ 突然たよりが送られなくなった。
- ・ 刑期（出所日）が変更になった。
- ・ 入会申込書もしくは会費を送ってから2ヶ月が経過してもマザーハウスから何も届かない。
- ・ 聖書（寄贈された中古のものです）の送付を希望する（送料800円分が必要です）。

○ たよりでは、投稿文以外の普段のお手紙から抜粋して掲載することがあります（受刑者の皆さんは、入会申込書に同意欄があります）ので、「掲載してほしくない」というお手紙・絵画につきましては、都度「掲載不可」と明記して頂きたく、宜しくお願い致します。

編集後記 by 編集局

記録的な暑さが続いておりますが、燦々と降り注ぐ太陽、太陽が反射してキラキラ光る青い海、私はそんな夏が大好きで、夏休みは地元の海で癒されて来ました。皆さま素敵な夏の思い出ができますように。



マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）



製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

コーヒー（粉）200g…1188円（税込）

コーヒー（豆）200g…1188円（税込）

カフェドリップ 10g（1杯分）…128円（税込）

継続して購入・販売してくださっている皆様（順不同）

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック所沢教会／カトリック浜松教会／カトリック東山教会／カトリック布池教会／カトリック菊名教会／カトリック中和田教会／カトリック新子安教会／カトリック碑文谷教会／カトリック桃山教会（平和環境部）／カトリック東仙台教会／カトリック春日部教会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／カトリック太田教会／カトリック大分教会／カトリック西千葉教会／カトリック下井草教会／カトリック新潟教会／カトリック多治見教会／カトリック芦屋教会／カトリック鷺ノ宮教会／カトリック松戸教会／ドン・ボスコ社／クリスト・ロア宣教修道女会／日本カトリック神学院／聖母訪問会

ルワンダの祈り



ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

マリアの紅茶



オーガニック
純スリランカ産セイロンティー

50g（2g入り25袋）…864円（税込）

古本募金（きしゃぽん）

書籍やDVDを下記にご寄付頂くと、マザーハウスに還元されます。

送り先：

〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916

マザーハウス きしゃぽん係

TEL：0120-29-7000

*マザーハウス事務所への送付はご遠慮ください。

獄中POSTシリーズ

引き継ぎ作業中のため、一時的に活動を中止しております。再開次第お知らせ致します。

ご支援

正会員（一口5000円／年） 賛助会員（一口3000円）
社会復帰支援（ご寄付）を随時募集しております。

振込口座名：トクヒ）マザーハウス

郵便振替口：00170-0-586722

みずほ銀行：新宿支店 普通口座 2376980

*info@motherhouse-jp.org 宛に内訳をご送付願います。

洋服等の物資の送付先：

〒130-0024 東京都墨田区菊川 1-16-18-1F

マザーハウス TEL：03-6659-2110

随時ボランティアの方を募集しております。

TEL：03-6659-5260

メール：info@motherhouse-jp.org

マリアコーヒー & マリアの紅茶のご
注文はウェブサイト・メール・FAX
にて承っております。
FAX：03-6659-5270



ご注文・支援詳細

マザーハウスたより 2024年8月号

発行日：2024年8月20日 発行責任者：原田昇

〒130-0024 墨田区菊川 1-16-18-3F NPO 法人マザーハウス